

水戸中心街の活性策探る



「水戸中心街を創りなおす」をテーマに意見交換するパネリスト＝水戸市文京

水戸市の中心市街地の新たなコンセプトを考えるシンポジウム「水戸中心街を創りなおす―商業中心から生活中心へ」茨城大人文学部市民共創教育研究センター主催が16日、水戸市文京2丁目の同大で開かれた。商業者や行政担当者、市民、学生などが集まり、「水戸中心街の衰退状況を認識し、創り直す」方策を探った。

学生や商業者がシンポ

現状認識し意見や提言

パネルディスカッションには商業経営や市民活動、行政などの代表8人が参加。「茨城大生は中心街に行かない。集まれる場ときっかけが必要」「人が集まるには高齢者や障害者に対し、電動三輪車や電動車いすなどを無料で貸し出し、買い物だけでなく、街を散策する手段と環境を支援する取り組みが大事」などの意見が出された。

同研究センターの齋藤義則センター長が「中心街の商業の活

性化と基本は、各商店の皆さんの努力と魅力を高めていくこと。（中心街に）生活の場として新しい役割を付加することで、集まった人を対象にビジネスすることが可能になる」などとまとめた。

パネルディスカッションに先立ち、同市の高橋靖市長が本年度スタートした市第6次総合計画に基づくまちづくりの基本的考え方を紹介。

水戸商工会議所地域ビジョン委員会の高野健治副委員長は「まちづくりに必要な将来像」、NPO法人コンズの横田能洋事務局長は「水戸の街をみて思ったこと」をそれぞれ説明した。

（小田内裕司）